

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173300068		
法人名	有限会社Do		
事業所名	ういずゆう		
所在地	岐阜県飛騨市神岡町東茂住242番地		
自己評価作成日	平成21年9月14日	評価結果市町村受理日	平成22年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173300068&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173300068&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NpO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒501-6232 宜雄府県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神岡公民館での作品展、旭保育園との定期交流、神岡中学校職場体験、神岡高校職場体験、茂住郵便局での定期作品展、神岡住民との舞踊・歌謡交流、年3~4回の小旅行等、地域社会に密着した日常生活を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

GHういずゆうは、四季を味わえる風景が豊かで、その明媚さは利用者を満足させている。施設の、食堂、居間、風呂、広場、運動場、中庭等 建物全体の大きさは、ゆとりを感じさせる環境である。様々な活動や作業は強制されるものではなく、本人の意思・希望とその決定が重要と考え、些細な事でもできた事を一緒に喜び次の活力に結び付けていく自立支援に取り組んでいる。共同作業の楽しみの一つである、季節感があふれるモチーフが展示してある。地域住民を施設に招いたり、利用者の作品を地域で展示するなど地域と積極的な交流に取り組んでいる。スタッフと利用者は、家庭的で仲がよく、評判の手作りの食事が元気の源になっている。「ここに住んで幸せだ」と、話し利用者は万遍の笑顔を見せた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の結果を一年間に区切り、作品展という形で実績を評価し、広く地域社会にアピールしている。	生きる力、喜びを味わい、喜びを周りの人々に与えると言う理念が、ミーティングで話し合いケアの統一を図っている。利用者の一人ひとりが日々の生活の中で自然な形で生きる力が湧き出ており、みんな元気である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民を施設に招いて交流すると共に、利用者本人が積極的に地域社会に溶け込めるような様々な企画を展開している。	地域の皆さんが楽しみにしている公民館や郵便局での利用者の作品展、保育園との定期的交流、中学生・高校生の福祉職場体験学習の受け入れ、舞踊・歌謡等ボランティア、花見や運動会の地域住民の参加など幅の広い交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会が行う様々なイベントの中で、介護や認知症等、様々な高齢社会に対する理解を深められるよう参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設で行われる様々なイベントを紹介すると共に、写真等ビジュアル的な角度から利用者の表情が確認できるよう取り組んでいる。	運営推進会議は定期的開催され、会議の様子は会議録に記録され、職員に共有できるシステムになっている。会議に参加する委員は、今回は、どんな報告があるのかと毎回楽しみにしているほど、各事業の内容が充実している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、飛騨市が行う福祉担当連絡会議において、行政との連絡を密にし、情報交換を行っている。	運営推進会議の場で、制度や評価方向の改善等の情報を得ている。また、市の福祉担当者会議には、必ず出席し、様々な意見の交換をし、助言を得ている。教育委員会とも利用者の作品展で連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、いつでも確認できる場所に掲示することで、日々取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルは、職員等が誰でも、いつでも見られる場所においてある。また、ミーティングで、身体拘束をしないケアをみんなで話し合っており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し、いつでも確認できる場所に掲示することで、日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度はH18年10月より当施設の積極的な働きかけで、関係者と協議のすえ平成20年9月に制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結には2回以上家族のもとを訪れ、入所に関する不安や疑問が無いよう、十分に納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	バーベキュー会・敬老会・食事会等家族が参加していただく場面を設け、家族の意見・評価を真摯に聞き出している。	職員は、面会時や家族を呼んで行うバーベキュー、食事会等の機会を捉えて、家族の皆さんと話し合いの場面を多く持つように心がけ、そのときに、意見や苦言を把握している。聞いた意見は、みんなで協議し、施設運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員がチームワーク作りの大切さを十分に認識していて、運営や介護に関してオープンに意見交換している	職員間の信頼関係があり、チームワークが出来ている。少しでも空いた時間に利用者の日々の様子、支援のことなどを話し合っている。ミーティングには、必ず、代表や管理者も参加し、職員の意見が運営に反映される体制を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数、勤続時間、職の内容によって給与水準を分け、研修・講習が受けやすいようサポートをすることで向上心を養っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年一人ずつ研修を受けさせている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉事業所または医療機関との連携がきわめて重要で、常日頃より情報交換、医療相談を行い、相互の理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	始めの一ヶ月は施設に慣れるためまた話し相手やお友達が見つけれよう誘導している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	二度三度とご家族と共に話す機会を作り、事前の施設訪問、ご家庭への訪問と相互に取り交わしお互いに障壁のないよう配慮している。また施設入所を求められた原因をはっきりする事で、介護する側の初期の重要なポイントとなると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、その家族がはたしてグループホームにふさわしいかどうかを見極めることが、長期サービスの重要な条件と考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の運営理念と重なるところであり、毎日の活動の中で実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との食事会や舞踊鑑賞会、演奏会等様々なイベントを通して利用者のご家族との交流できる場を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵便局や公民館で作品展を開くことで、地域との交流する機会を設け、ご利用者やその友人たちとの出会いの場となっている	利用者の作品展等、地域との交流は幅広く行われている。施設を訪れる人は多く、また、地域の行事にも出来るだけ参加し、その場面で馴染みの関係者との再会等を楽しみとし、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を結び付けていく事で、施設内の環境が穏やかとなり、落ち着いた日常生活を営む事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	神岡の地域は狭く、退所された本人やご家族にも日常的に会うので、これまでの関係を断ち切ることはできない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な活動においては本人の希望や意思により選択させ、何もしたくないときにはそつと一日を暮らせれる様に配慮している	利用者と職員の間関係がよく、会話がいつもあり、笑い声が絶えない。何をすることも職員と一緒に、寄り添いながら職員は利用者の希望や要望を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との話の中で、特に趣味や特技、生活スタイル、家族構成と状況を知る事が重要と考え把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前と午後と変化して行く心情を把握し、ご利用者にあった活動と話し相手を誘導し、毎日が画一的にならないよう配慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、職員と管理者、代表者が中心となり、定期往診の医師の助言やご家族の要望書等を総合的判断して作成しているため、ご利用者一人ひとりにあった計画がなされている	介護計画は、代表者、管理者と職員が参加して、チーム全体で作成している。主治医の意見、利用者の希望、家族の要望等も反映させている。また、目標達成については、評価を数値化して行ない、職員は目標をめざす努力をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護日誌を作成し、介護計画が予定通り実践されているか確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集会所の解放や屋外での食事会など施設の立地条件や建物構造の良さを利用して提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便局や公民館での定期的作品展による交流や交番所への資料の提供等地域社会とのつながりを深めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望される医師による医療は、妨げる事は全くなく本人やご家族の意志を尊重している	本人及び家族の意思を尊重し、希望される医療機関を受診できるよう支援している。現在は利用者全員が事業所のかかりつけ医を利用し、適切な医療をうけることができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	神岡地域の中核となる市民病院との連携により、退所後も同等の医療環境を継続する事ができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市民病院の医師や看護婦と当施設の連携は築かれていて、当施設の要望や本人の希望または、医療現場の状態を相互に話し合うことができ、早期退院や施設での往診、治療等幅広い信頼関係を保っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の専門的な立場から、本人の進行状況や半年後、一年後の推測される状態を説明し、参考資料を提供する事でご家族に不安や、心配を与えない	重度化や終末期に対しては、家族全員の意見が一致した上での希望であれば、かかりつけ医の協力を得、話し合いを重ね、全員で方針を共有し対応する用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成してあるが、定期的な訓練には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急災害マニュアルを作成し、いかなる状態においても対応できるよう、職員間にて検討されている。	災害対策のための各種マニュアルが作られており、緊急連絡網も見やすい場所に掲示されている。交番や消防団とも日頃から連携をとっており、協力を得られるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	作品展による情報公開とプライバシー保護には難しい関係があり、個人情報についてはあくまでも秘密を原則とし、情報公開においては個人の尊厳とご家族の希望を失う事無く行なわれている。	利用者一人ひとりに対し、日頃から尊敬の態度で接している様子が伺える。ご家族の理解を得た上で、個人のプライバシーを尊重しながら年一回の作品展を行っており、地域の人たちからも高い評価を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な活動や作業は強制されるものではなく、本人の意思・希望とその決定が重要で、自然と導かれるようなホームの環境づくりが必要でありそのために職員が雰囲気作りを行なっている。些細な事でもできた事をほめてあげる事で次の活力に結び付けていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な活動や作業は強制されるものではなく、本人の意思・希望とその決定が重要で、自然と導かれるようなホームの環境づくりが必要でありそのために職員が雰囲気作りを行なっている。些細な事でもできた事をほめてあげる事で次の活力に結び付けていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の住人たちとの交流が多く、様々な写真を地域に提供している当施設では、服装や身だしなみ、清潔感を大切にしており、本人のおしゃれを楽しむ機会を作り出している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の素材や季節折々の野菜を利用しており、筍の皮むきや餃子、おはぎやきなこ団子、干し柿など利用者が得意とする献立や共に出来る食事作りをしている	食事の準備、後片付けは利用者にも手伝ってもらい、楽しみながら行っている。利用者の方の得意な料理を披露する場もあり、食事は職員と利用者の会話の弾む、楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調により、補助食やスポーツドリンク等を利用することで、一日の栄養バランスを整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全体で行なう入れ歯の洗浄、うがいを促し、習慣性が身につくように配慮し、定期的に職員による入れ歯洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は介護計画に中でも最も重要な部分と考え、一人ひとりの状態にあった支援をを目指している。	おむつ使用者に対しては、できる限り声掛けし、さりげないトイレ誘導を心掛けている。一人ひとりに合った支援を職員全員が周知し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を個別に記録して把握する事で、夏場冬場と季節による変化や排泄量の把握も職員に共有されている。また排泄を把握する事は本人の生活状態、心の状態を知る事ができるため極めて重要な要素となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別によっては一日2回入る方もあり、制限は設けていない。	利用者の希望や体調、失禁など、タイミングに合わせた入浴を実施している。全員がお風呂好きで、中には入浴が楽しみで、一日二回入る利用者もあり、一人ひとりに合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩・休息は個別によって行なわれ、そのときの本人の体調や心の状態に合わせて自由に取る事ができている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の履歴を記録し、個々の薬のファイルを作成して職員がいつでもその作用・副作用について確認できるように配慮している。定期的に行なわれる往診時に症状の変化に伴う薬の処方医師と話し合い連携を緊密にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々な作品を作っていく中で一人一人の能力に応じた作業があり、利用者同士できないところは助け合って仕上げっていく場面を作り出している。その中で自らの生きがいと生活の活力となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩や草刈、花壇作りや神社・仏閣の参拝を行うことができる	天気の良い日はできる限り戸外へ散歩に出掛けるよう支援している。遠出をする時は、利用者と職員でお弁当を作り、車で出掛ける。出先で食べるお弁当は何より楽しみにしているようである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かけたときには個別に好きなお土産を購入させたり、おやつ・食材の買出しの手伝いが出来る場を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親しい友人にはリンゴ狩りやコスモス園など外出した折々や年賀状には本人の記念写真を添えた葉書や手紙を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、階段、廊下等やさしさと心落ち着いた季節感があふれるモチーフで装飾をしている。利用者と共に製作を行い、共同作業の楽しみの一つとなっている。	玄関、娯楽室、居間、台所、食堂、浴室、トイレ、全てが広々としており、広い空間を利用し至るところに利用者の作品が見事に展示されており、季節感あふれる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い娯楽室においてお互いの適度な距離感が保たれ、自分の居場所を自由に選択できるよう、ソファ、椅子、畳を配置してゆったり過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日曜生活道具は家庭で使用していた物をそのまま居室に持ち込むことで、馴染みやすい環境作りを行い、認知症の程度や季節に応じてその品物の数を調整している。	居室はそれぞれが家庭で使用していた物、好みのものを持ち込み、馴染みやすいものになっている。また季節に合わせ居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室のドアには写真入の名札をつけ、部屋の間違いを防いでいる。また廊下には黄色の案内線や誘導紙を掲示して自立歩行の手助けをしている。		